

ただいまこの記事をご覧になっている皆様ならば、さまざまな学術論文を継続的に読まれていると思います。光学分野の日々の進展に伴い、読んだ論文、読みたい論文は増加の一途をたどっていることでしょう。近年はデジタル化が進み、さまざまな学術論文誌がデジタル版を配信しており、論文の保管先は本棚からコンピューターの中へと移転し、また、論文を探し出す仕組みも、Google Scholar を筆頭とする便利な論文検索サービスが提供されるようになりました。

さて、大量の情報が取得可能となってきましたと、問題となってくるのはその管理ではないでしょうか。多数の未読既読の論文をコンピューター内に保管できるのはよいことですが、大量になってきますと、どのファイルがどの論文なのかわからなくなってきて困ります。例えば、学会発表や投稿論文執筆等に参考文献として引用しようと思ったとき、雑誌名、巻号、ページ数等々の書誌情報を確認する必要がありますが、論文一つ一つについて該当ファイルを探して情報を確認するのも、論文数が増えてくると気が遠くなるものです。

今回は、日々増え続ける論文を読みこなす方々の一助に、文献管理ソフト Mendeley をご紹介します。

### 1. Mendeley とは

Mendeley は Windows, Mac, Linux のどの OS を使用している人でも利用できるフリーソフトで、書誌情報の管理と、PDF ファイルの閲覧および簡易編集が行えます。これを使うと、管理している論文の中からキーワードや著者等を指定して検索したり、管理している書誌情報を利用して参考文献リストを生成したり、論文の PDF ファイルにマーカーやメモを書き込んだりできます。また、Microsoft Word と Libre Office との連携や、EndNote, BibTex で使う文献リストファイルの入出力にも対応しています。

### 2. Mendeley の導入

まず、Mendeley の Web ページ ([www.mendeley.com](http://www.mendeley.com)) にアクセスし、ユーザー登録とソフトのダウンロードを行います。登録には氏名、電子メールアドレス、パスワード (Mendeley 専用)、研究分野、職業の入力が必要です。Facebook をご利用の方

は、そちらのアカウントを利用して登録することも可能です。

ダウンロードしたソフトのインストールは、そのコンピューターの管理権限があるユーザー名で行う必要があります。インストールが完了したら、早速起動してみましょう。初回起動時には、メールアドレスとパスワードを入力する必要があります。先ほどのユーザー登録の情報を入力してください。このとき、PDF ファイルの登録等が行えますが、後で行うこともできますので、お好みでどうぞ。

### 3. 文献情報の登録

PDF ファイルを所持している場合は、それを Mendeley にドラッグアンドドロップすれば、Mendeley がそのファイルから題名、著者名、雑誌名等の書誌情報を解析して登録します。この自動解析は一部失敗する場合がありますので、正しい情報に修正する必要があります。

文献の修正方法は、自分で文献を見ながら手作業で行うことも可能ですが、「Search by Title」ボタンを押すと Google Scholar を通して書誌情報を取得することができます。

また、より詳しく正確な情報を取得する手段として、ArXiv ID (数物系のプレプリントサーバー arXiv の文献管理番号)、DOI (デジタルオブジェクト識別子)、PMID (アメリカ国立医学図書館の国立生物工学情報センターが運営する文献検索サービスの文献管理番号) を利用した自動取得があります。それぞれ入力欄の右にある虫眼鏡のマークをクリックすると、書誌情報を取得してくれます。

すでに BibTex や EndNote など文献リストを管理している方は、bib ファイルや ris ファイル、xml ファイルを Mendeley に読み込ませれば、リストを追加登録できます。

### 4. 論文 Web サイトからのインポート

日々新たに公開される論文を登録する際には、Web インポーターという便利な機能があります。これを用いれば、連携している Web サイトに限られますが、ブラウザで閲覧している Web ページから書誌情報を取り込むことができます。

まず、Web インポーターをブラウザに搭載します。ブラウザで <http://www.mendeley.com/>

import/ にアクセスすると、インポーターの導入方法、連携サイト一覧、使用方法が記載されています。このページ中にある「IMPORT TO MENDELEY」と書いてある画像をブックマークバー（インターネットエクスプローラの場合はお気に入りバー）にドラッグアンドドロップしてください。「Import to Mendeley」というブックマークが登録されます。

インポーターの使用方法ですが、登録したい文献が記載されている Web ページを閲覧している状態で、登録した「Import to Mendeley」ボタンを押してください。新たにポップアップウィンドウが開いて登録予定内容を表示します。このウィンドウでタグの追加や分類用フォルダーの選択、メモの入力が行えます。

登録内容を確認したら、「Save to library」という緑のボタンを押してください。この緑のボタンを押さないと登録されませんのでご注意ください。

インポーターの使用でもうひとつ注意してほしいのは、ブラウザのセキュリティ設定によりポップアップが表示されない場合があることです。ポップアップの許可はサイトごとに行えますので、個別に許可しておいてください（方法はブラウザごとに異なります）。

ブラウザでのインポート作業が完了したら、Mendeley に戻って文献リストを見てください。先ほどブラウザで登録した文献情報が「1 件も追加されていない」ことがわかると思います。最後の仕上げにウィンドウ上部のツールバーにある「Sync」ボタンを押してください。回転する緑の矢印が目印です。これでお手元の Mendeley に文献情報が追加されます。

Web インポーターを用いた情報登録では、アブストラクトやキーワードやサイト URL 等の詳細情報（サイトによって内容は異なります）が取得できませんが、PDF ファイルだけは取得してくれます。これはサイトライセンス等でそのサイトから PDF ファイルがダウンロード可能な場合でも同様ですので、お手数ですが、PDF ファイルについてはブラウザでダウンロードして、手作業で Mendeley に追加してください。

## 5. 複数コンピューター間の同期

Mendeley は複数コンピューター間の同期が可能です。別のコンピューターに Mendeley をインストールし、同じユーザー情報を入力しておけば、別々のコンピューターで同じ情報を参照することができ、どちらのコンピューターからも情報の追加更新が自由に行えます。

Mendeley では PDF ファイル等の添付ファイルも同期します。同期用サーバー容量は 1 GB ありますが、論文数によってはあつという間に一杯になってしまうでしょう。そのような状況に対応するため、添付ファイルについては同期するか否かを設定で選択することができます。

この選択はフォルダーごとに行うことができますので、添付ファイルを同期したい文献を登録するための専用フォルダーを作ると便利だと思います（Mendeley 内のフォルダーは OS のフォルダーと異なり、同じファイルを複数のフォルダーに同時に登録しておくことができます）。

また、一度同期を経由してダウンロードした添付ファイルは、添付ファイルの同期を止めても削除されることなくコンピューター上に残りますので、1 GB の容量を貯蔵庫として使うのではなく輸送経路のように使えば、かなりの量の情報を同期できるでしょう。

駆け足で紹介してみました Mendeley、いかがでしたか。わかりにくいところ、足りないところ等あるかとは思いますが、インターネット上にはより詳しい情報もありますので、興味をもたれた方は検索してみてください。

なお、Mendeley では日本語論文の管理登録もできますが、現在連携している日本語文献データベースサイトはほとんどなく、使い勝手はよくありません。一方、Web サービスで「日本語論文 to Mendeley」（<http://addon.ej-labo.jp/>）、iPhone アプリで「論文検索 Free」といった無料で利用可能な連携サービスが提供されていますので、今後これらの利用と開発が進み、日本語文献への対応環境が充実することが期待されます。

（防衛大学校 和田 篤）